庶務幹事この一年

百生　敦（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

2007年より本学会の年度の区切りが９月/10月になっています。すなわち，2008年10月より2009年度がスタートしているわけですが，暫定期を過ぎて本格的にこの年度区切りで学会運営を行ったこの一年でした。学会の運営にとって比較的ゆとりのあるよい形になったと思います。

この原稿を執筆している時点では，合同シンポの準備の仕上げに入っているところですが，すでにご案内している通り，今回は創立20周年記念シンポジウム・式典も一緒に執り行います。本学会設立からの20年は私が大学を卒業してからの20年にほぼ一致しており，ずっと放射光科学に関わってきた個人としても，この節目の重みを感じているところです。昨年より記念事業の企画委員会を招集させていただいて議論を重ねてまいりました。尾嶋実行委員長をはじめ実行委員の方々のご尽力により，準備が着々と整っております。この場を借りて感謝申し上げます。なお，本学会は民間企業との関与が多いことがひとつの特徴ですが，特に賛助会員など企業展示などで長く関わりのある企業に対して，この20周年の機会に感謝状を贈呈することになっております。昨今の経済情勢には心配が尽きませんが，引き続き本学会をご支援いただければと思います。

さて，学会の運営に携わる立場にいて，会員に還元される学会活動をどのように行うかが常々大切であろうと思っております。会長の方針に「若手の育成」が掲げられておりますが，特に若い研究者にとって魅力ある学会であることが最近特に重要に思います。例年の奨励賞選考に加え，合同シンポでの学生賞も充実させることにしておりますが，放射光学会の今後の発展のためにも若手会員がもっと増えるようにできればと思っており，幹事会でも議論を進めています。

残る任期は９か月（2009年９月末まで）となりました。庶務幹事は，会長を先頭にその活動方針に基づいた学会運営を円滑に行うべく，執行部の土台を支えつつも時としては先頭になって学会活動を仕切ることが求められる重要な役割を担っています。庶務幹事を仰せつかってそれに応える仕事ができているかと自問するとなかなかそうとは言えず，ひとねじもふたねじも巻かなければと自戒しているところです。雨宮会長のもと，執行部としてのラストスパートの時期になります。引き続き，会員の皆様からのご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願いいたします。

行事幹事この１年

山本雅貴（理化学研究所）

学会行事幹事の大役を引き受けてから，はやくも２年が過ぎようとしています。行事幹事として，20周年という大きな節目を迎える放射光学会で，より多くの会員の皆様に興味をもって頂けるよう今年は，日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム（以下，年会・合同シンポと略す）の開催と次期年会に向けた準備作業，さらに20周年記念式典の年会合同シンポとの合同開催に向けた調整作業などを行いました。また，20周年記念式典の開催に集中するため，今年は若手ワークショップの開催を見送りました。若手研究者への放射光利用の啓発と潜在的な放射光ユーザーの拡大を目標に，2009年に新たな企画を検討中です。これからもより多くの会員の皆様が興味をもって参加していただける行事・企画を心掛けたいと思いますので，ご意見をお願いいたします。

年会・合同シンポは，総合的な放射光科学の情報発信の場として，広い研究分野の放射光ユーザー間および施設間での情報交換と参加者交流を目標に開催しています。2008年の年頭には，立命館大学・びわこくさつキャンパスで初めての開催となる第21回年会・合同シンポを太田俊明実行委員長・難波秀利プログラム委員長および組織委員・実行委員の皆様のご協力により成功裏に開催することができました。2009年はじめに東京大学・本郷キャンパスで開催予定の第22回年会・合同シンポは，20周年記念式典との合同開催の形で会期を４日間に拡大して尾嶋正

(C) 2009 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

治実行委員長・柿崎明人プログラム委員長のもとで準備を進めています。20周年記念式典開催日（1月10日）の午前中には，安田講堂で「日本放射光学会の20年の歩みと放射光への期待」と題した特別企画を組み込み，年会・合同シンポでも日本放射光学会の設立20周年を記念して，放射光科学のこれまでの発展とその将来像についての議論の場を設けています。この報告が会員の皆様の手元に届くころには，第22回年会・合同シンポ（JSR09）も成功裡に開催できているものと確信しております。2010年の年会は，SPring-8での開催を予定しております。皆様のご参加をお願いいたします。

最後になりましたが，昨年1年，会長・他幹事・評議員・行事委員・事務局ならびに会員の皆様にはお世話になりましたことを感謝するとともに，引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

編集幹事この一年

櫻井吉晴（高輝度光科学研究センター）

編集幹事を拝命した後，暦のうえでは早2年が過ぎました。任期は残すところ10カ月になりましたが，有能な編集委員メンバーと事務局に助けられながら，就任当初の目標に向かい仕事を進めています。2008年10月には，編集委員の約半数が新メンバーと交代しました。検討の過程で断念したものもありますが，現在，学会機関誌「放射光」の編集・発行（年6回）と「放射光ビームライン光学技術入門」の出版・販売を2本柱にして進めています。

学会機関誌「放射光」は，幅広い放射光コミュニティーの研究分野を反映し，多彩な内容の記事が掲載されています。特に放射光分野における最先端研究の紹介をはじめ，他分野の読者を想定した解説などの記事を掲載していますが，これからもより一層できるだけ多くの読者に読んでいただける記事の掲載に向けて努力していきます。編集にあたっては，⑴次世代光源，⑵先端基礎研究，⑶産学連携（産業利用含む），⑷国際的視点，⑸放射光リテラシー，⑹ニュース・バリューをキーワードにして，記事の選択をおこなっています。また，実用性を重視し，利用者を対象にした「特別企画，検出器シリーズ」を21号2巻（2008年3月発行）からスタートさせ，順調に毎号掲載しています。さらに，「放射光」の価値を高めるために，「巻頭言」や「ある放射光先端利用分野の特集号」の検討も進めています。

放射光学会では初めての試みとなりました単行本の出版・販売も，学会員の皆様のご理解と担当者の努力により，順調に進んでいます。2008年12月24日に，念願の単行本「放射光ビームライン光学技術～はじめて放射光を使う利用者のために」が出版されました。落ち着きある黒基調のカバーに包まれた本書は大変コスト・パフォーマンスが高く，初心者のみならずベテラン研究者の座右の書として，胸を張って推薦できます。また，先行予約段階で購入予約部数が当初予定の出版部数に迫るものがありましたので，最終段階において，事業予算の範囲内で出版部数を500部から700部に増やしました。

最後になりますが，色々な場面で助けて頂いた雨宮会長，幹事の皆様，学会事務局の皆様，編集委員の皆様に深く感謝いたします。

渉外幹事この一年

繁政英治（自然科学研究機構 分子科学研究所）

現在の執行部は，放射光学会の会計年度変更に伴う9カ月の暫定期間がありましたので，年末恒例の「幹事のこの一年」への寄稿も異例の2度目となり，これから3回目の年会・合同シンポジウム，総会を迎えることになります。力不足のため，昨年同様，反省すべきことばかりなのですが，この一年を振り返ってみたいと思います。

第21回日本放射光学会年会・合同シンポジウム（JSR08）が関係者のご尽力により無事終了したのを受けて，前年同

様，Synchrotron Radiation News（SRN）に会議報告を掲載するための原稿作りが年初の最大の仕事でした。SRNは，放射光施設に所属されている会員の方々にはお馴染みの小冊子ですが，ユーザー控え室等に置いてあることもあり，利用者の方々の中にも，ご覧になったことのある方が多数おられると思います。新第三世代リングの建設ラッシュや第四世代光源の開発競争に呼応するように，近年，紙面を占める会議報告の割合が増加の一途を辿っているように感じます。このためでしょうか，投稿して暫くすると，ページ数の制限や記述内容の整理・変更などの細かい指示がエディターから届きました。所属機関での国際ワークショップの報告などで，これまで何度もSRNに投稿してきましたが，そんな指示をエディターから受けたのは初めてでした。結局，エディターとの三度のキャッチボールを経て，漸く出版に至ったのですが，以前とのギャップの大きさに非常に困惑しました。

この出だしでの躓きが尾を引いたわけではありませんが，振り返ってみれば，SRNへの投稿以降，渉外幹事としての学会への貢献度が，徐々に尻すぼみになってしまった印象は拭えません。特に春先から夏にかけて，JSR09の期間中に開催予定の日本放射光学会創立20周年記念シンポジウムの準備や，昨年度からの懸案事項であった施設間ネットワーク形成に向けた議論が本格化して以降，その傾向が強まったように思います。結果として，昨年，最優先課題として取り組むと宣言した，「英語版ホームページの整備」には，殆ど手を付けることが出来ませんでした。

その他にも，当初の思い描いていたようには進まないことばかりの一年になってしまいました。残された任期は一年弱と長くはありません。年頭にあたり，ここで一念発起し，雨宮会長が示された方針を少しでも具現化すべく努力する所存です。学会員のメリットを最優先し，渉外幹事として取り組むべき課題の優先順位を整理しながら，全力で取り組んで行きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

会計幹事この１年

澤　博（名古屋大学）

前執行部から数えると学会幹事として４年がたちました。本年は，私事ながらKEKから名古屋大学に異動しました。工学部の構造物性の講座を引き受けて，粉末構造解析で数々の成果を上げてきた研究室を引き継ぎ，多くの学生たちと共に放射光X線回折による構造解析を主体とした，全国でも類を見ない研究室になりました。施設から放射光の１ユーザーとして立場を変えてみると，放射光学会の見え方は多少変わってきたように感じます。これは，私自身が中近東の放射光施設計画SESAMEに技術支援という形で開催された，下村物構研所長が率いる放射光スクールに参加して感じたことでもあります。つまり，放射光とは多くの研究者を基盤として支えており，学会の運営はユーザーコミュニティーの意見を集約するというよりも，我が国の科学技術の方向性を大所高所から議論すべき立場ではなかろうかということです。この観点から，放射光学会の会員の方々は日本全体だけでなく，アジア・オセアニア・中近東までの広い範囲の国々の放射光という地上の太陽と言われる施設を，いかに運営していくのかということに対する責任を担っているという立場が含まれているということです。編集委員の皆様の活躍によって初めて実現した単行本も，ぜひ英訳して近隣諸国に大量に販売して学会運営に必要な予算獲得に貢献して頂きたいと思う会計幹事としての所感で締めくくらせて頂きます。